



渡辺 甚一 議員

「飛驒のおいしい米」 高山市から 全国アピールを！」

米の有利販売について

【問】平成26年の夏は天候不順だった。米の生産量は前年対比でどうだったのか。

【答】米の生産量は前年対比93%、販売額は13億1,842万円、79%となり、米価下落分では、2億3,700万円減少となった。

【問】有利販売に繋げる「飛驒高山おいしいお米プロジェクト」が2年前に発足した。白米で1俵あたり6万円で購入されているようだが、取り組み状況は。

【答】現在プロジェクト会員は12名である。1.3haで3,150kgを生産し約半分は販売済みである。

【問】米のにおいしさは食味計で計る。メーカーによって数値が違うよ

うだが、現在どのぐらい市内にあるのか。また、コンクールで使用されているメーカーの食味計も必要では。

【答】現在食味計は3台あり、平成30年の「米・食味分析コンクール」に向け、JA飛驒では食味計と味度計の購入が検討されている。



米の袋詰め

【問】観光客が402万人来高するが、飛驒産米はホテル・旅館・飲食業でどれだけ食べられているのか。宣伝はされているのか。

【答】飛驒産米の使用について今後調査する。業者向けに、プレミアム米の試食会を開催したところ高い評価を受け、購入された業者も複数あり、今後さらなるPRをしていく。

平成26年の災害について

【問】8月の豪雨災害で被災した農地は、春の作付けまでに復旧できているのか。

【答】この冬の倒木の影響や、災害復旧工事が集中して発注されたため、業者の手持ち工事が多い。春の作付けに間に合わない所は、地権者と協議していく。

【問】豪雪災害では、岩滝地区が5日間停電になり、防災無線や携帯電話などのバッテリーがなくなり、情報伝達や連絡が取れなかった。衛星電話などの対応がもっと早く出来なかったのか。

【答】長期停電になる事も予想した早期の対応として、NTTと連携していく。



松葉 晴彦 議員

高山市の 小中学校の成績は！

全国学力テストの公表は

【問】全国学力テストの結果を市民や保護者が知りたいのは当然のことである。全国と比較してどうだったのか。

【答】市内の小中学校は全国平均とほぼ同じである。ただし、国語A(知識力)と算数B(活用力)は全国平均よりやや低い。中学校は全国平均より高かった。なお、岐阜県平均の中学校数(A(知識力)は全国で10位以内の好成績であった。

【問】学力テストと併せてスマホやゲームの使用時間のアンケートがされたが、成績に及ぼす影響は。

【答】中学校数学A(知識力)の場合、一日四時間以上ゲームをする生徒の正答率は56%。30分

未満の場合73%で17%の差があった。長時間ゲームをする生徒の指導を考えていく必要がある。



昨年の8月豪雨の復旧状況

【問】昨年の8月豪雨はせせらぎ街道と沿線に致命的な災害をもたらした。橋梁も二橋流失した。被害状況は。

【答】道路、河川、橋梁併せて108か所で約31億円の被害となった。

【問】復旧工事が遅れているようだが。

【答】復旧の発注件数が多過ぎて一部受注いただけない案件があるのも事実である。建設業

者に協力いただき、一部を除き平成27年度末までに完了したい。

12月豪雪の被害状況と対策は

【問】パイプハウス、果樹被害の状況と対策は。

【答】2月12日現在でパイプハウスは194棟、面積23,795㎡、果樹はリンゴ、モモを中心に2.33haが被害にあった。雪融け時に被害状況を再度調査し、復旧経費の助成や果樹の樹勢回復に向けた支援を行う。

【問】観光施設、指定管理施設等の除雪費が激増しているが、その対応は。

【答】指定管理者と協議し適切な対応をしたい。

【問】倒木等による長期停電被害が続いた。今後の対策は。

【答】今回の対応について現在検証中である。行政、町内会、消防、中電、森林組合等関係機関による連絡調整会議の設置を検討している。